

未来の子どもたちのために

上映会を開催します。

日時：2022年2月26日（土）

13:00開場 13:10開演 15:40終了

場所：小川町立図書館視聴覚ホール

主催：生活クラブ生協小川支部

共催：小川町の学校給食を考える会

資料代：500円

\* 参加ご希望の方は裏面をご覧ください。ウェブページよりお申込みください。

\* 申し込み多数の場合は先着順。お断りする場合のみご連絡いたします。

# 食の安全 を守る人々

農薬の大幅規制緩和、ゲノム編集食品の流通——

わたしたちのカラダや食の未来は？

メディアが伝えない食の裏側に迫るドキュメンタリー

監督・撮影・編集：原村 政樹

プロデューサー：山田 正彦 語り：杉本 彩 音楽：鈴木 光男 企画・制作：一般社団法人 心土不二 配給：きろくびと

2021年/日本/カラー/102分 [kiroku-bito.com/shoku-anzen](http://kiroku-bito.com/shoku-anzen)



# アグリビジネスは日本に幸せをもたらすのか—— それとも日本は世界の潮流に逆行しているのか？ 日本で、海外で農と食の 持続可能な未来図を描く人たち

種子法廃止、種苗法の改定、ラウンドアップ規制緩和、そして表記無しのゲノム編集食品流通への動きと、TPPに端を発する急速なグローバル化により日本の農と食にこれまで以上の危機が押し寄せている。しかし、マスコミはこの現状を正面から報道することはほとんどなく、日本に暮らすわたしたちの危機感は薄いのが現状である。

この趨勢が続けば多国籍アグリビジネスによる支配の強まり、食料自給率の低下や命・健康に影響を与えることが懸念される中、弁護士で元農林水産大臣の山田正彦が、長年、農業をテーマに制作続けている原村政樹監督との二人三脚で撮影を進め、日本国内だけでなく、アメリカでのモンサント裁判の原告や、子どものために国や企業と闘う女性、韓国の小学校で普及するオーガニック給食の現状など幅広く取材。果たして日本の食の幸せな未来図はどこに…。

**2020年 日本映画復興奨励賞受賞、  
キネマ旬報文化映画ベスト・テン第7位の  
『タネは誰のもの』の元となった、  
CFでも話題を呼んだドキュメンタリー！**

2020年 第94回キネマ旬報文化映画ベスト・テン第7位に選出され、同年の第38回日本映画復興奨励賞を受賞した『タネは誰のもの』のベースとなり、クラウドファンディングでも1600人以上から支援が集まり話題を呼んだ本作。山田正彦プロデューサーと原村政樹監督のタッグに加えて女優で作家、ダンサーの杉本彩がナレーションを担当。前作と本作を通して、農と食のあるべき姿が見えてくる。

食の安全  
を守る人々

監督・撮影・編集：原村政樹 プロデューサー：山田正彦 語り：杉本彩 音楽：鈴木光男  
取材協力：印鑰智哉 映像技術：李恩求/青木克都 整音：丸山昇 ポスプロデスク：原田修  
製作デスク：遠藤菜美恵 企画・制作：一般社団法人心土不二 予告編制作：大友頌平（一般社団法人SEA）  
宣伝美術：鯉江光二 配給：きろくびと 2021年/日本/カラー/103分  
kiroku-bito.com/shoku-anzen

上映会に参加ご希望の方は、**URL**または二次元コードよりウェブページ  
にアクセスの上、申し込みフォームに記入してください。

**URL：** <https://ws.formzu.net/dist/S62200417/>

